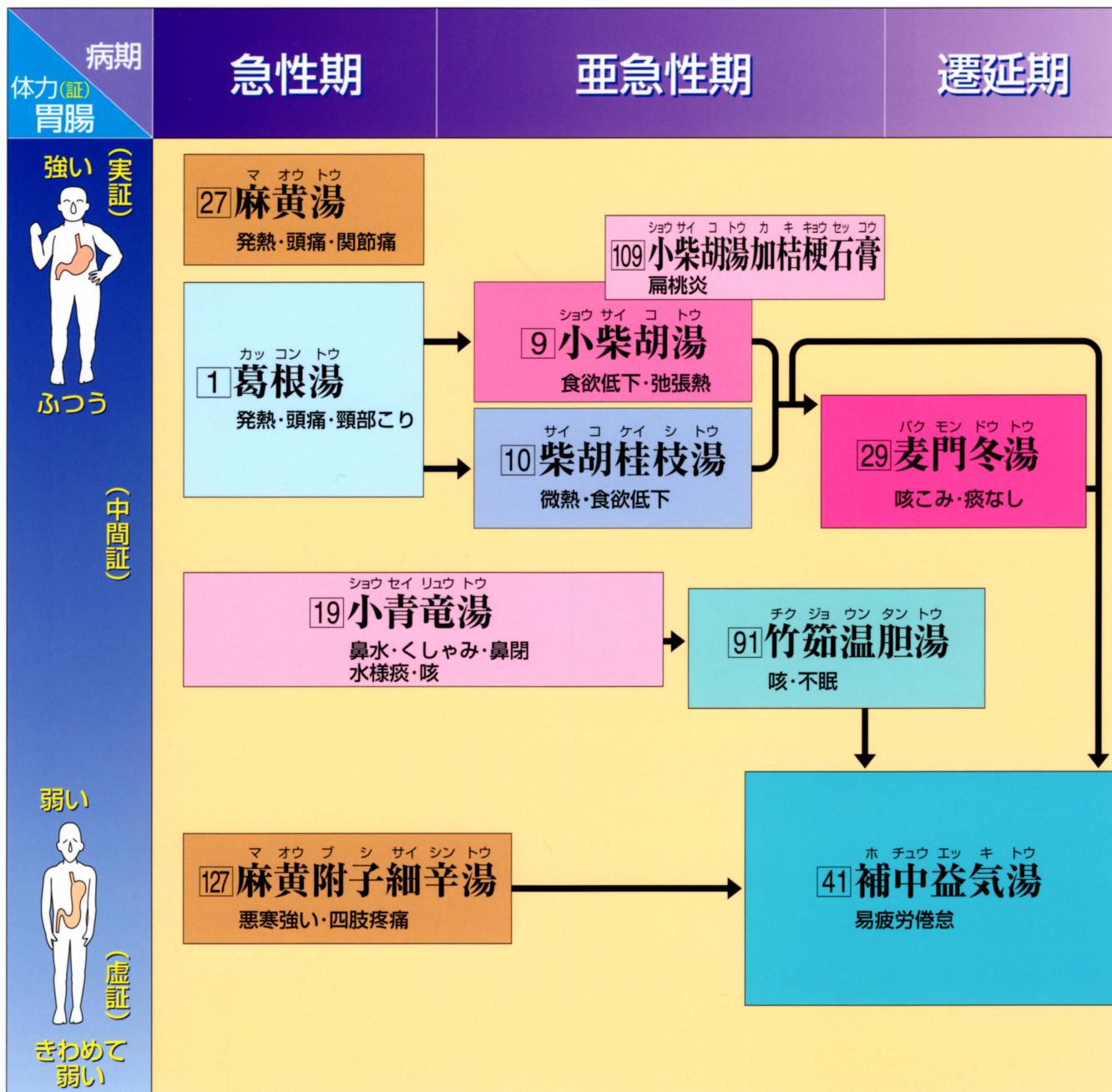


# かぜ症候群の漢方治療ABC

〈監修〉松田邦夫 松田医院 院長



典型的な漢方処方の流れ：急性期は、**葛根湯**などの麻黄剤が中心で、亜急性期は、**小柴胡湯**など柴胡剤、遷延期は、**補中益氣湯**などの補剤が適用される。  
インフルエンザの初期には、**麻黄湯**が用いられることが多い。

## 図の見方

### 処方の四角形は

- 大きいものは使用頻度が高い。左右に長いほど適用期間が長い。

### 四角形の下(上)の症状は

- その漢方薬を使うべき主要な症候を示す。
- ただし、小青竜湯は、鼻炎の時期は左側の症候、気管支炎の時期は右側の症候をそれぞれの使用目標とする。
- 2つ以上の処方の目標症候が同時にある例では、原則としてより顕著な症状に合わせて漢方薬を選択する。

### →は

- ある漢方薬を使用して、ある程度の効果があっても、治りきらずに症状が変化した場合には、→で示された先の漢方薬の適応となることが多いことを示す。